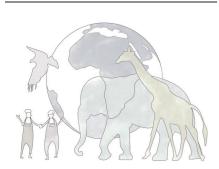
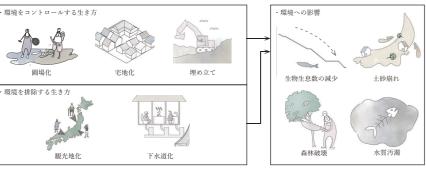


1-1. 他者の定義 | 「環境」

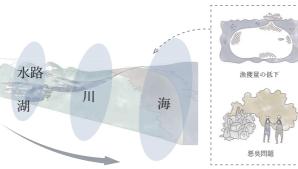


であると同時に多様な生物種の住処でもある。そうした環 とが私たち人間の暮らしの豊かさへと繋がって行く。



本提案では他者を「<mark>環境</mark>」と定義する。環境は人間の領域 急速に技術が発展する現代において、私たち人間は環境とともに生きられているだろうか。湖や海の埋め立て、農地や 湖や水路の汚染あるいは破壊といった地域単位の環境問題の積み重なりはやがて河川や海 現現代における生き方は環境、そして私たち人間の暮らしをも 宅地の開発とったコントロールは環境問題を引き起こす。残された環境を守ろうと自然保護区への指定や観光地化によ 域へと影響を与える。こうして<mark>水域環境全体が汚染され生態系が崩壊していく</mark>ことで、漁 害していくと考え、環境との付き合い方を問い直す。環境をコ 境を破壊することなく、人間との共存関係を図っていくこ り人間の暮らしから<mark>隔離</mark>する政策ですら、環境へのケアが不足し、結果的に環境が崩壊する状況にある。2極化した生き 獲量の低下や地球温暖化をはじめとする多面的な問題が引き起こされる。 方は環境のみならず、人間の暮らしすら害していくこととなる。

1-3. 問題 | 環境汚染が及ぼす人間への影響





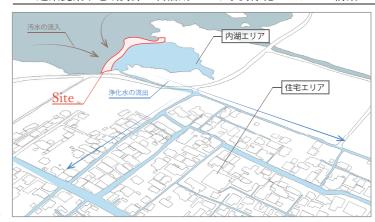
ントロールあるいは排除する暮らしが見受けられる現代におい や水草すら採りにくい状況にある。そのため、水域を受け 置付ける生き方であると考える。

3-2. 提案 | オカズトリの新考

4-1. 水域の水質改善の必要性



現状の水域の水質では人々が寄り付かず、水はおろかヨシ

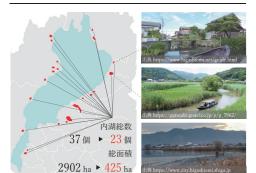


て求められるものは、<mark>環境を受け入れ、人間を循環の一部へ位</mark> 入れる暮らしを構築するための枠組みとして、<mark>現状の水質</mark> 下流にあたる内湖に隣接するエリアに、閉鎖的水質浄化システムを構築する。この地で浄化された水 から人が立ち入れる水質への改善を促す建築を計画する。を上流の水路へ通し、水路に流れる水質を段階的に改善する。

1. 瓦チップ蛇籠による水質ろ過 放棄された瓦の活用 ・瓦チップの多孔質性 水域を閉じるように、蛇籠で構成した 壁を配置する。民家の廃瓦を原料とし た瓦チップを詰めた蛇籠とすること で、蛇籠の空隙を通して水を通しつつ 匂いや不純物を吸着し水質を改善す 。また、空き地などに放棄されてい る廃瓦も再利用することで、廃棄物に よる環境への負荷を低減する。

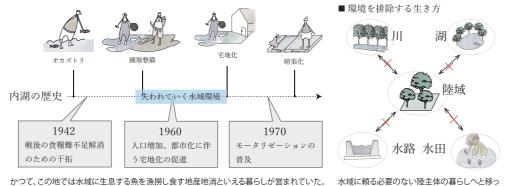
PROCESS | 水質浄化の一連の流れを示す

2. ヨシによる水質浄化の促進 閉鎖水域内に生息するヨシ群落が、蛇 籠によりろ過した水の水質を浄化す る。ヨシが富栄養化の原因とされる窒 素とリンを吸収するほか、連続するヨ シが水流速度を緩和することで水中の 汚れを沈殿させる。また、ヨシに付着 する微生物が水中の不純物を分解する ことで水質浄化効果を促進する。



敷地は、滋賀県琵琶湖周辺に位置する内湖。琵琶湖の水域を引き ため、多様な動植物の生息環境として機能している。

2-4. 空間の分離が及ぼす水域環境への影響

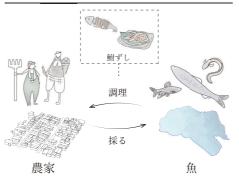


込む形で形成された水域環境であり、河川や水路、湖、水田、複 しかし、戦後の食糧不足解消のための圃場整備を皮切りに、水域の上に陸主体の生活基盤 ていくことで手をつけなくなり、残された水域 <mark>の補填として漁撈するオカズ</mark>トリという文化が存在していた。 <mark>あらゆる水域資源を暮らしの補填として活用する暮ら</mark>しを提案 数の水域を有している。琵琶湖に比べ水深が浅く栄養素が豊富な が形成されていった。水質汚濁の発生や水域そのものが消失することで、漁獲量の減少や は地元住民の暮らしから排除されていく。 悪臭といった問題が発生し、地元住民の暮らしへ悪影響を与えている。

2-3. 陸域と水域の空間的分離



■琵琶湖・瀬戸内海への影響



内湖周辺には、農家が琵琶湖から内湖に流入してきた魚を食事 本提案では、かつてこの地に存在していたオカズトリのように

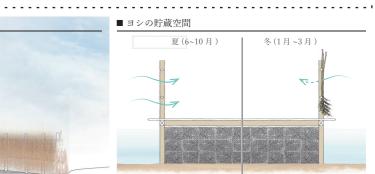
水域を残しつつ暮らしの一部として活かすこの生き方は、環境 する。水域に存在するヨシや水草、ヘドロなど多様な資源を暮 を破壊する現代において求められる生き方であると考える。 らしへ活用することで、環境との共生を図ることができる。





伊庭内湖近くに位置する伊庭町を対象とする。観光地化されておらず、住民の暮らしと水が 近い環境が残されている。そのため、手付かずの水域が数多く見られ、今後埋め立てなど開 発が行われるリスクも高い。





蛇籠の上にヨシを貯蔵するためのヨシ道を計画し、ヨシ収穫から貯蔵 までの効率化をはかる。ヨシが貯蔵されたヨシ道は冬場の風をしのぎ、 ヨシが消費される夏場には風を通す。季節に応じ快適性を維持する親 水空間となる。

の場としての役目も失われることで、排水抑制の必要性も消失し、水路や下流である湖の水質汚染を引き起こしている。 が足りず、苗植えに対し刈り取りが充分に保全が行えていない状況にある。結果、水質は改善 また、水流が一方向であるため湖の水質が汚染され水域と暮らしとの距離は遠ざかり、ヨシ刈りの不足に伴うヨシのヘ されず、汚染された水が内湖の下流に位置する琵琶湖、そして瀬戸内海へと流れ汚染してい ドロ化により、水質汚染を促進する形となっている。

■排水抑制意識の低下に伴う水質汚染 ■ヨシ刈り不足による水域の汚染



■ヨシ刈りによる環境保全活動



残された水域が住民の暮らしから排除されることで水路に対する排水抑制意識の低下が顕著になった。洗濯・水遊び この現状に警鐘を鳴らし、現在行政主体のヨシ刈りによる保全活動が行われているが、人手

くことで、より大規模な環境問題へと発展していくこととなる。